



平成18年1月1日、

5つの町がひとつになり、
福島県伊達市が誕生

伊達市は今年で二十歳
歴史はまだまだ路半ば

この先十年、二十年、
さらには百年先までも

あしあとを踏み残してゆく

伊達のみらいへ
伊達のあしたへ

はるかな伊達路を共に
歩み続けて行きましょう



伊達市初となる名誉市民章を贈呈

表彰では故三浦弥平氏のご親族である三浦勇三さんと白根自治協議会長の三浦義三さんにご登壇いただき、市長より名誉市民称号記が贈られました。受賞にあたり三浦勇三さんは「弥平はスポーツや健康面において進んだ考えを持っており、託児所の開設やマラソン大会の開催など、さまざまなことを行っていました。晩年は本当に子どもたちとのふれあいを大切に過ごしており、今回の受賞は天国の弥平も喜んでいると思います。ご支援を賜りました関係者の皆さま、弥平の継承にご尽力いただいている皆さまに厚く御礼を申し上げます」と謝辞を述べました。



伊達市の名誉市民 三浦 弥平

伊達郡白根村字木ノ田（現伊達市梁川町白根字木ノ田）に生まれ、旧白石中（現宮城県白石高校）から早稲田大学政治経済学科を卒業。小さい頃は体が弱く休学を繰り返し、早稲田大学に入学したのは24歳の時だった。旧白石中時代から陸上競技の道へ入り、早大時代は各種大会で入賞を重ねた。大正9年には第7回アントワープオリンピックのマラソン競技に金栗四三氏らとともに出場、福島県第1号のオリンピック選手となる。その後、大正13年の第8回パリオリンピックにも連続出場する。

昭和3年には母校の早稲田大学の講師要請を断り帰郷。昭和7年、郷里の山林に「オリンピック村」を建設し、青少年の体力づくり、健全育成に尽力するが、戦況の拡大によりわずか4年で閉村。

昭和17年、東京・新京間親善マラソンを行い渡満、戦後は再び郷里へ戻り、地域青年を集めてのマラソン大会や私設保育所の開設、自宅を「白根体育公民館」として開放するなど、晩年まで地域スポーツの振興に尽力し、80歳で永眠。



金栗四三氏との写真



子どもたちと走る三浦弥平



写真 梁川美術館提供

霊山太鼓の魂を揺さぶる演奏と共に幕開け



令和8年6月28日㊿、伊達市合併20周年を記念した式典が伊達市ふるさと会館MDDホールで実施されました。司会をお務めいただいたのは伊達なふるさと大使の長沢裕さん。開式の時間を迎えると、大太鼓の勇壮な響きと共にステージの幕が上がり、霊山太鼓遠征組の皆さんによる、魂を込めた太鼓演奏が披露されました。途中からは、同じく伊達なふるさと大使の小林アリスさんも友情出演いただき、息の合った共演により会場を盛り上げました。



式典には佐藤宏隆福島県副知事をはじめ、多くのご来賓の皆さまにご臨席を賜り、あたたかいお祝いのお言葉を頂戴しました。

振り返る20年、そして未来へ

式典で須田市長は「この20年を振り返りますと、大規模災害からの復興復興、人類がこれまで経験したことのない感染症との闘い、急速に進行する人口減少と少子高齢化への対応など、大きく変化する社会環境の中での20年でした。本日こうして迎えることができた合併20周年は、これまでの伊達市を祝う節目であると同時に、“新たなスタートライン”でもあります。今後も本市ならではの特性を生かしたまちづくりを進め、本市の未来像である『人と緑と歴史が結び合う ひかり輝く田園空間・伊達市』の実現に向け“自然と都市が調和する美しい田園風景に包まれた魅力あふれる伊達市”を市民の皆さまと共に築いてまいります」と述べました。



式典は盛大なフィナーレへ



式典の最後には、アトラクションとして大島花子さんに「上を向いて歩こう」「ひめりんご」をご披露いただき、すてきな歌声が会場をやさしく包み込みました。3曲目には伊達市立桃陵中学校生徒との「心の瞳」の合唱が披露され、大きな拍手が響き渡りました。そして4曲目は大島さんに「見上げてごらん夜の星を」をご披露いただき、伊達市合併20周年記念式典は最高のフィナーレを迎えました。